

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成23年10月3日（月）～10月9日（日）〔平成23年第40週〕の感染症発生状況

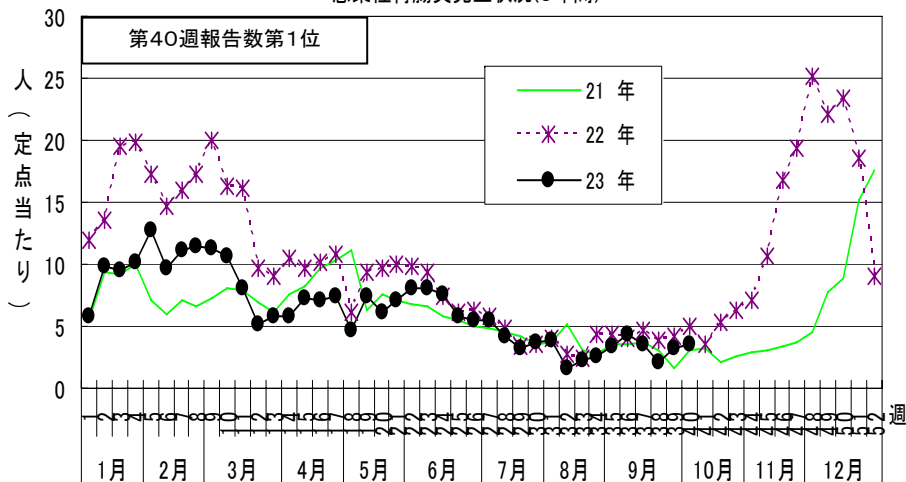
第40週で患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)手足口病 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・ヘルパンギーナでした。

感染性胃腸炎は定点当たり3.52人と前週(3.24)より患者報告数はやや増加しています。例年の傾向から、今後11月から12月にかけて、患者報告数が増加すると推測されますので、これからの発生動向に注意が必要です。

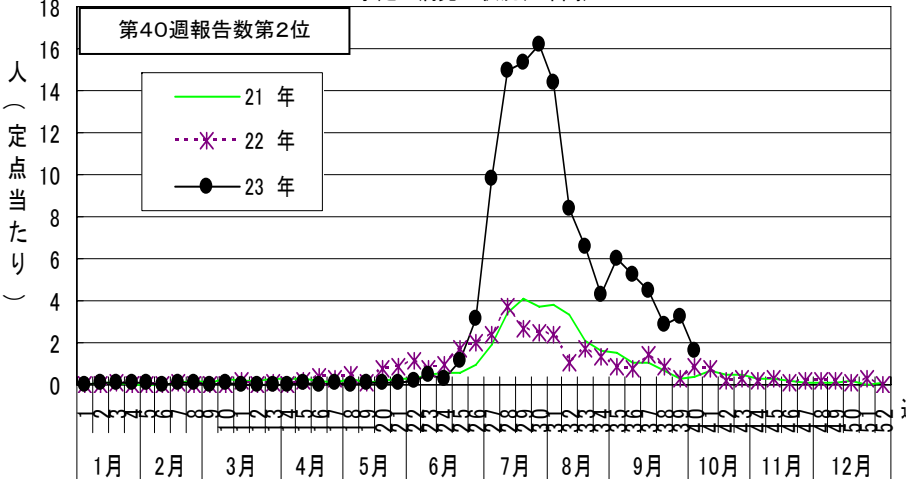
手足口病は定点当たり1.64人と前週(3.27)より患者報告数は減少しています。

インフルエンザについて3件の報告がありました。例年に比べると早い時期からの報告となっているため、早めの対策(予防接種など)をこころがけましょう。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



手足口病発生状況(3年間)



「RSウイルス感染症」～秋から冬に流行する感染症～

RSウイルス感染症は、名前のおりRSウイルスを原因とする呼吸器の感染症で、ほとんどの乳幼児が2歳までに感染し、咳、鼻汁などの上気道症状から細気管支炎に及ぶと、呼吸性喘鳴、多呼吸、陥没呼吸などが出現してくるので注意が必要です。

RSウイルスってどんな症状？

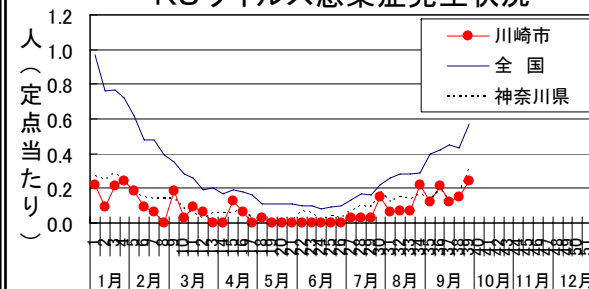
潜伏期間は2～8日で、発熱、鼻汁などの風邪様症状が出ます。また、乳児患者の10～40%に、肺炎などの下気道症状が出現します。なお、心臓や肺に基礎疾患がある小児においては、重症化するリスクが高くなります。RSウイルス細気管支炎に罹患後長期にわたって肺機能の異常を呈し、また喘鳴を繰り返すことがあります。

どういったことに注意すればいいの？

患者の鼻水や咳などから感染するので、手洗いの徹底やマスク着用などの「咳エチケット」を心がけることが大切です。

また、流行期(特に12月)に乳幼児を連れて外出する際には、人ごみを避けるなどの注意をしましょう。

RSウイルス感染症発生状況



上のグラフのとおり、特に全国的に報告数がとても多くなっており、2003年のデータ収集以降、最も高いレベルで推移し続けています。

地域別では、第39週において、宮崎県や香川県などで報告の増加が目立っています。